

主日礼拝

2025年12月7日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前 奏 『久しく待ちにし(讃美歌 231 番)』 F. ペータース
灯火入堂 アコライト: 教会学校
招 詞 エレミヤ書23章5節
賛 美 歌 2 3 1

《神の言葉》

祈 禱 アドベントの祈り
聖 書 ルツ記4章13～22節 (旧約410頁)
マタイによる福音書1章1～17節 (新約1頁)
子ども説教
交 読 詩 編 詩編19編8～11節 (23頁)
賛 美 歌 2 3 9
説 教 「ダビデの子」 八木浩史牧師
祈 禱
賛 美 歌 2 3 3

《感謝の応答》

信 仰 告 白 使徒信条
献 金
祈 禱 献金当番
主 の 祈 り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 2 5
祝 福
報 告 12月誕生者祝福
後 奏 『いざ来たりませ(讃美歌 229 番)』 J. H. ブットシュテット

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像:

「ダビデの子」

『ルツ記』では、ナオミがモアブからベツレヘムへ戻ってきましたが、彼女は夫と二人の息子に先立たれ、嫁のルツだけを伴い寂しく帰ってきたのでした。ルツは「あなたの神は私の神」だと言って、ナオミから離れなかったのです。まだ将来に希望を見い出せないナオミとルツでしたが、神の不思議な導きにより、落ち穂拾いをさせてくれた畑の主人ボアズが、ルツの亡き夫エリメレクの氏族に当たる人であり、その出会いからルツと結婚することとなったのです。やがてボアズとルツの間に産まれた子オベドは成長して息子エッサイをもうけます。そのエッサイから生まれた子がダビデであり、統一イスラエル王国の王となる人です。

『マタイによる福音書』の冒頭には「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」と書き始める系図が記されています。その系図はイスラエルの歴史を表すものであり、また神に背き続ける罪人の歴史でもあります。ダビデは神に忠実な王でしたが、その子孫たちは神に背く罪を重ね続けました。それと共に王国は他国に滅ぼされ、バビロン捕囚の試練の時を過ごすこととなります。神はイスラエルを見捨てられたのでしょうか。そうではありませんでした。王族は王位を失い、無名の子孫たちとなりますが、その末裔に大工のヨセフが生まれ、マリアが産んだ神の御子をイエス様の養父となります。こうして主イエス・キリストは、「ダビデの子」と呼ばれるようになるのです。この方こそ、「新しいイスラエル」を建てるまことの王様なのです。